

ロシア情勢とウクライナ戦争の行方

ジャーナリスト 石川 かわ いち よう
一 洋

- * 工業都市のドネツク州ボクロウシクが主戦場
- * ドローンによる軍事革命で戦い方も激変
- * ロシアの戦死者はアフガン侵攻の10倍以上
- * 「まず停戦」に舵を切ったゼレンスキー
- * 和平を急ぐトランプの思惑
- * ロスネフへの制裁はプーチンとのデイルのカード
- * 戦況的には不利でも外交的にはウクライナが有利
- * プーチンは戦争を止めることができるのか
- * 高市総理の所信表明にロシアが反応
- * NATO諸国に軍事力増強の圧力をかけるトランプ



山縣 それでは開会いたします。（拍手）

本日は、ジャーナリストの石川一洋さんをお迎えしました。皆様ご存じのように、石川さんは長らくNHKのロシア報道の真ん中でお仕事をされてきて、今でも解説委員としてお話をされております。東京大学のロシア語ロシア文学科を卒業後、NHKに入局されて、今日までロシア問題一筋でこられた方です。今日も「おはよう日本」の「ここに注目！」のコーナーに登場され、こちらに来ていただきました。「みみより！解説」とか「時論公論」といった番組でも、ロシアの問題、ウクライナ戦争の問題等を論評されています。

ウクライナ戦争については、トランプ大統領がすぐに停戦させられる、和平へ持っていける

と言っていました、依然膠着状態です。膠着の中でいったい何が行われているのかということもたいへん気になりますし、最近ではドネツク州で要衝のボクロウシクというところで激しい攻防を繰り返しています。いったいこれはどういう意味があり、なぜこのような事態になっているのか、そういった物事の実相や深いところを今日はお話したいと思っています。

それでは石川さん、よろしく願っています。（拍手）

石川 よろしく願っています。ただいまご紹介いただきました石川一洋と申します。NHKに入ってから、かれこれ43年ぐらいロシアと関わってきました。今日はロシアのウクライナへの軍事侵攻、戦争の現状と、今後どうなる